



-第3弾 新情報のお知らせ-

『マトリックス』などの世界的衣装デザイナーが日本の太鼓芸能集団と初コラボレーション
DNA や指紋をモチーフに視覚的ストーリーを描き、“人類すべて”を表現
太鼓と創造力がつくりだす、新・視聴体感芸術 鼓童×ロベール・ルパージュ〈NOVA〉
衣装デザイナー キム・バレットの最新インタビューを公開

2020年5月23日(土)、世界初演

太鼓芸能集団「鼓童」は、2020年5月23日(土)より、ロベール・ルパージュが演出を手掛ける「鼓童×ロベール・ルパージュ〈NOVA〉(ノーヴァ)」を世界に先駆けて日本で上演いたします。

〈NOVA〉では『マトリックス』『アメイジング・スパイダーマン』などで有名な世界的衣装デザイナー キム・バレット氏とコラボレーションし、新衣装を製作。本リリースでは、キム・バレット氏の最新インタビューに加え、鼓童メンバーの衣装に纏わる最新インタビューを公開いたします。



撮影：岡本隆史

▼画像素材は下記 URL よりダウンロードいただけます。

http://www.kodo.or.jp/kodo_pr/202005nova (pass: nova2020ja)

今回の衣装制作にあたり、キム・バレット氏は鼓童の拠点である新潟県佐渡島に来島されました。竹細工、焼き物、裂き織り、刺し子、ガラス工芸、草木染め、絹織物、能舞台など、佐渡の伝統芸能・伝統芸術、そして佐渡の自然に触れ、大きなインスピレーションを得ておられました。

佐渡南西部に位置する小木半島の中央部「鼓童村」に到着し、中庭で〈NOVA〉メンバーを採寸。その後、「道」の通し稽古を見学されました。キム・バレット氏は「鼓童の『間』というサイレントなアートが魅力的。素晴らしいものが積み上げてきて、時差ボケも吹っ飛んでいた気がする」と話されました。また、鼓童研修所も訪問。「研修生が田んぼで民謡を歌う姿や、田植えの前に泥を慣らすために泥んこ遊びをしている姿は(作品の中でも田んぼや農作業のようなシーンがあるため、インスピレーションとして)ロベールにも共有した方が良いだろう」と話されました。

また、秋葉原の ONKYO BASE に鼓童〈NOVA〉特別ブースを開設。特別に、鼓童・北林玲央モデルの舞台衣装(プロトタイプ)を展示しているほか、佐渡&ケベックでの練習の様子を撮影したメイキング映像もご覧いただけます。この特別な機会にぜひ ONKYO BASE に足をお運びください。

◆ 衣装デザイナー キム・バレットインタビュー



Q.今回の衣装について、どのような“想い”を込めて製作されましたか？

〈NOVA〉の衣装はPhase2のケベック（での練習）でロベールとのディスカッションから始まりました。その時、鼓童とも初めてお会いして、創造的なエネルギー、佐渡という本拠地、鼓童という団体がどう生まれたかというストーリーにインスピレーションをたくさん得ました。もっとも面白く感じたのは「私が見る鼓童」のアイデアをもとに衣装を展開させていくことでした。若くて、力強く、ダイナミックな演奏がありながら、日本の伝統や文化に敬意を示している彼らの姿がありました。

Q.何をイメージして製作された衣装なのでしょうか？

私はDNAや指紋などのデザインを通してそれぞれの個性やユニークさを語る視覚的ストーリーを描きたいと思っており、それらのデザインで同時に人類すべてを表現したいと思っています。

Q.〈NOVA〉衣装製作のハイライトを教えてください。

今回衣装を製作するにあたって、美しい佐渡島を訪れることが出来たこと、鼓童の本拠地である鼓童村や研修所を拝見し、佐渡に住んでいる素晴らしい職人出会えたことが私にとって〈NOVA〉の衣装作りの一番のハイライトでした。

Q.なぜ鼓童からの依頼を受けたのでしょうか？

ロベールとのコラボレーションは私にとって挑戦的で冒険的なプロジェクトに挑む最高の理由です。鼓童の様なカンパニーとは出会ったことがなかったですし、一分一秒をとっても楽しくさせてもらっています。

Q.苦労した点、面白かった点、楽しかった点を教えてください。

予算との兼ね合いは苦労していますが、鼓童の皆さんと出会えてコラボレーションをしていること自体が楽しいです。それに加えマーク（キム氏のアシスタント）やエクスマキナ（ロベール・ルパージュの芸術指揮のもと、多分野で舞台演出・製作を担う総合制作会社）と仕事ができているのも嬉しいですし、鼓童のメンバーやスタッフと過ごした佐渡での思い出は一生忘れません。

Q.鼓童だからこそ必要だった工夫はありますか？

彼らが出す音を聞いて、感じるということの必要性を実感しました。衣装としては演奏者の身体性を表現すると同時に、衣装の形やスタイルに合わせて彼らの動きやすさを生み出すことに工夫が必要だと感じています。

Q.日本の芸能集団への衣装提供は（キム氏の中で）初めてですか？

はい、そしてこれが最後にならないよう祈ります！

◆ 鼓童メンバー インタビュー

Q.普段の鼓童の衣装と比べてどう違うのでしょうか？



〔石塚充〕今回みんなで着たのは、青色のベースにカラフルな柄のついた通称「DNA」と呼ばれるものでしたが、おなじ模様でおなじような形状のものを着ても、着るメンバーによって似合い方が違ってみえたり、違う模様に見えたり、シーンごとにぜんぜん違った印象を受けたり、だけどすごく〈NOVA〉の世界に自然に馴染む、すごく不思議な衣装だなと感じました。



〔草洋介〕普段の衣装（法被）の場合、強調されているのが「太鼓・人」、つまり音が鳴る、鳴らすということにフォーカスされたものを感じています。今回の〈NOVA〉の場合にも同じような要素はあるのですが、時に人と衣装が風景の一部になったり、現象を際立たせる影になったりと、役割が場面によって変化していく面白さがあるように思います。



〔住吉佑太〕鼓童の法被、腹掛け股引といったものは、もともと職人の作業着です。しかし今回は、この舞台のために作られた衣装ということで、もっと具体的に衣装が世界観の一部となっています。作業着に、職人の歴史が染み込んでいるのと同じく、今回の〈NOVA〉の衣装にも、舞台芸術の歴史が染み込んでいて、長年かけて洗練されたメソッドが詰め込まれているように感じられます。



〔三浦友恵〕私がゴーストダンスで着る衣装は、初めて着るスタイルです。全身タイツで生地もキラキラしています。しかし舞台では肌が艶やかに見え綺麗です。その上に布を纏い、布を捌きながら踊ります。



Q.実際に衣装を着て演奏した感想を教えてください。



〔石塚充〕まだ試作段階なので、素材や形状など具体的な課題はあるにせよ、すごく着心地というか、居心地がよく、壮大な〈NOVA〉の世界のなかにも自然体で入っていける、舞台上で照明をあびているのに普段着でいるのと変わらない心地よさがあり、ぜんぶの衣装が完成するのが今から楽しみです。



〔草洋介〕素材や形がとてもよく考えられていると感じました。太鼓を打っても、踊っても、笛を吹いても「やり辛さ」を感じることはほとんど無く、とても快適でした。あとは、肌を見せる要素も多いので鼓童の肉體性も感じていただける衣装になっていると思います。



〔住吉佑太〕映像や写真で映える色使いだなと思いました。近くで見る印象と、離れて見る印象が全然違って、まさに舞台衣装といった感じです。

――太鼓と創造力がつくりだす、新・視聴体感芸術〈ノーヴァ〉

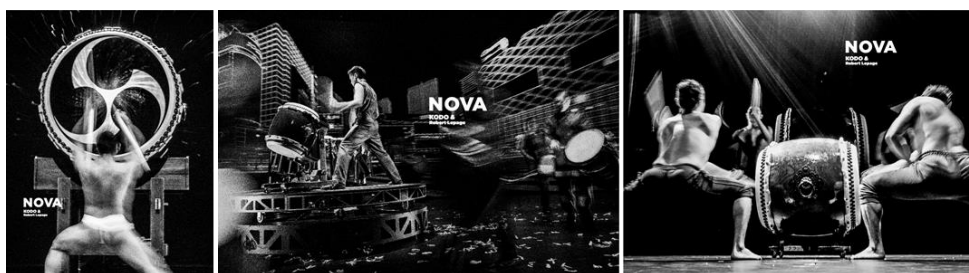
ロベール・ルパージュが演出を手掛ける、「鼓童×ロベール・ルパージュ〈NOVA〉」は、日本文化と最先端ビジュアルテクノロジーが融合する、新・視聴体感芸術です。映像や光、演者の動きをプログラミングして実現する“音を見る”=サイマティクス（意味：音や振動の可視化）。プロジェクションマッピングではなく、太鼓の音に合わせて、打ち手の生のリズムにテクノロジーが反応。音から動きが起こり、繋がり、物語が構築されます。人間本来の根源的なものを表現しながら、人が生きる上で忘れてはいけない、希望や夢など、「目には見えにくいもの」を表現します。

「鼓童×ロベール・ルパージュ〈NOVA〉」公式サイト

<https://www.kodo.or.jp/nova>

トレーラー映像

<https://youtu.be/1HPgvtSK7nc>



――2020年5月23日（土）、世界初演

2020年5月23日（土）、東京建物 Brillia HALL（豊島区立芸術文化劇場）の世界初演を皮切りに、熊本、新潟、山形、神奈川、愛知、大阪を巡演します。〈NOVA〉はラテン語で新しいという意味。鼓童とロベール・ルパージュが織りなす、見たことも感じたこともない新しい世界をお楽しみください。

◆ 東京公演概要

- ・公演名：「鼓童×ロベール・ルパージュ 〈NOVA〉」
- ・演出：ロベール・ルパージュ
- ・公演日程：2020年5月23日（土）～31日（日） ※休演日：5月27日（水）
- ・劇場：東京建物 Brillia HALL（豊島区立芸術文化劇場）
- ・チケット発売日：2019年12月15日（日）
- ・主催：北前船、豊島区、公益財団法人としま未来文化財団
- ・後援：カナダ大使館、ケベック州政府在日事務所
- ・製作協力：Ex Machina
- ・Technological partner for video and tracking：VYV
- ・協力：KAAT 神奈川芸術劇場、よこすか芸術劇場（（公財）横須賀芸術文化財団）、フェニーチェ堺
- ・特別協力：読売新聞社
- ・助成：公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京
- ・企画：製作・著作：北前船



◆ 公演期間・公演地情報

- ・5月14日（木）・16日（土）：よこすか芸術劇場 ※プレビュー公演
- ・5月23日（土）～31日（日）：東京建物 Brillia HALL（豊島区立芸術文化劇場）
- ・6月7日（日）：熊本県立劇場 演劇ホール
- ・7月10日（金）～12日（日）：新潟県民会館 大ホール
- ・7月25日（土）：やまぎん県民ホール（山形県総合文化芸術館） 大ホール
- ・9月3日（木）～6日（日）：KAAT 神奈川芸術劇場
- ・9月11日（金）～13日（日）：愛知県芸術劇場 大ホール
- ・9月19日（土）：厚木市文化会館 大ホール
- ・9月26日（土）：フェニーチェ堺 大ホール

◆ ONKYO BASE 〈NOVA〉 特別ブース（プロトタイプ衣装展示）

- ・期間：2020年1月22日（水）～2020年2月29日（土）
- ・住所：東京都千代田区神田須田町1丁目25番地4
- ・電話（店舗）：080-8310-6278
- ・営業時間：11:00～20:00
- ・定休日：不定休
- ・アクセス：http://onkyodirect.jp/shop/pages/ONKYOBASE_ACCESS.aspx

◆ キム・バレット (衣装)



映画、演劇、オペラを手がける衣裳デザイナー。オーストラリア出身。1996年の映画「ロミオ+ジュリエット (監督バズ・ラーマン、主演レオナルド・ディカプリオ、クレア・デーンズ)」でデビュー、1998年に「スリー・キングズ」を担当後、1999年の「マトリックス (監督ウォシャウスキー兄弟、主演キアヌ・リーブズ)」とそれに続くシリーズ作で、革命的ともいえるクリエイティブ・ワークを見せた。その他の担当作品に「スピード・レーサー」「FROM・ヘル」「タイタン A.E.」「アメイジング・スパイダーマン」「アクアマン」などがあり。最新作は現在製作中の「チャーリーズ・エンジェル」。舞台作品では、シルク・ド・ソレイユの「トーテム (演出ロベール・ルパージュ)」など多数手がけている。

◆ ロベール・ルパージュ (演出)



©V. Tony Hauser

ロベール・ルパージュは、演出家、脚本家、俳優、映画監督としても大成をおさめている。演劇に対するクリエイティブで独創的なアプローチにより世界的な賞賛を得、特に新たなテクノロジーを駆使することで古典的な舞台演出の概念を根本から揺るがした。著名な舞台作品としては、『ドラゴンズ・トリロジー』、一人芝居である『887』、オペラ作品『ファウストの劫罰』、マルチメディア作品においては『The Library at Night』、そしてシルク・ドゥ・ソレイユの『KA』及び『トーテム』などがある。今年7月にはシアターコクーンでの、7時間の超大作『HIROSHIMA 太田川七つの流れ』の公演も控えている。

https://www.bunkamura.co.jp/cocoon/lineup/20_hiroshima.html

◆ 太鼓芸能集団 鼓童

佐渡島を拠点に、太鼓を中心とした伝統的な音楽芸能に無限の可能性を見だし、現代への再創造を試みる集団。1981年ベルリン芸術祭でデビュー。以来50の国と地域で6,500回を超える公演を行う。劇場公演のほか、小中高校生との交流を目的とした「交流学校公演」や、多様なジャンルのアーティストとの共演、国際芸術祭、映画音楽等へ多数参加している。2012年から2016年まで坂東玉三郎氏を芸術監督に招聘。2017年「幽玄」で坂東玉三郎氏と再共演を果たし、翌18年には歌舞伎座において新作歌舞伎「幽玄」として演奏で参加した。近年は石川さゆり、初音ミク、AI、元ちとせ、ブラフマンらと共演。2019年には19年ぶりの中国ツアーを成功させたほか、「ラグビーワールドカップ2019日本大会」開会式、「国立競技場オープニングイベント ~HELLO, OUR STADIUM~」に出演。



撮影：岡本隆史